

仏教をめぐる冒険 ～ 龍大探検隊、仏教の西端を探る～

龍谷大学文学部

入澤 崇 教授

1955 年生まれ。龍谷大学大学院終了。1996 年、龍谷大学助教授、2002 年より現職。仏教文化学が専門で、アジア各地における固有の文化と仏教との関係を中心に研究。2011 年にオープン予定の「龍谷ミュージアム」の設立準備にも携わる。

私たちに最も馴染みの深い宗教である仏教は、日本の文化や思想などに大きな影響を与えてきました。仏教はインドで生まれ、アジア各地に広がります。しかし、意外なことにどのように、またどこまで広がったのか、仏教伝播についてはわからないことが多いといえます。たとえば、東の端は日本で、シルクロードをつたって奈良まで到達したといわれています。では、西の端は？ 今回は、この、謎に満ちた仏教の西の端がテーマです。タイトルに「冒険」とあるように、入澤先生自ら政情不安な地域を調査し、次々と仏教遺跡を発見しました。最初は、戦争の爪あとが残るアフガニスタン。さらに調査はイランやトルコにまで及びます。果たして、仏教の西の端は？ 仏教とイスラム教の共存など、世界史の教科書にもない、とても興味深い話が満載です。

- 第 1 章 西に東に～広がる仏教
- 第 2 章 アフガニスタン中央部から西へ
- 第 3 章 仏教とイスラームの出会い
- 第 4 章 さらに西へ～イランの仏教遺跡

第1章 西に東に～広がる仏教

インドで誕生した仏教がアジア各地に広がったきっかけとなったのは、「仏像」の誕生だったといえます。それを機に、仏教は四方に広がっていきました。そして東は日本に至り、西の端は現在のところトルクメニスタンのメルヴだと考えられています。そんななか、いままで仏教が伝わっていないと考えられていたアフガニスタン西部でも、仏塔らしきものが見つかりました。仏教史を塗り替える発見になるかもしれない…。入澤先生は調査団を率い、アフガニスタンに向かったのです。

第2章 アフガニスタン中央部から西へ

龍谷大学の調査チームがアフガニスタンに入ったのは2004年。翌2005年から本格的な調査を実施しました。その結果、仏塔らしきものを発見。また、4層からなる石窟寺院も見つかりました。さらに、イスラーム遺跡の下からも、仏教につながるものが見つかります。次々と発見される仏教の遺跡。アフガニスタン西部にも、確実に仏教が広がっていたことがわかってきました。

第3章 仏教とイスラームの出会い

龍谷大チームの調査でわかったのは、仏教の広がりについてだけではありません。アラビア半島で起こったイスラーム教は、拡大の過程で他の宗教を駆逐していった、と世界史で習ったと思います。しかし、8世紀、アフガニスタンの西部では仏教とイスラームが共存していた時期がありました。仏教の、さらなる広がりははっきりしたことで、このことが明確になりました。文明の衝突、そして共存について考え直す必要があるのかもしれない。

第4章 さらに西へ～イランの仏教遺跡

最終章は、アフガニスタン西部やトルクメニスタンよりもさらに西、イランへの仏教伝播の可能性についてです。2008年、入澤教授はイランで「仏教寺院だった可能性の高い遺跡」を調査しました。そこは、世界史にも登場するイル・ハン国、その最初の首都だった場所です。仏教寺院であったことが確かなら、仏教はもっと西に広がった可能性もある、といえます。仏教をめぐる冒険は、まだまだ続きそうです。